

令和 4年度 園評価書

園番号 56

園名

葵待機児童園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
こころもからだも元気な子	安心して思いを出しながらあそぶ	温かく応答的な関わりの中で、安心して自分の思いや欲求を表現している	マスクで顔が見えない事で子どもが不安にならないよう、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で子どもの思いや欲求を受け止めるようにしている	A	A	いつも子どもを大切に頂き、安心して預ける事ができています。ありがとうございます。 悲しいニュースが多いですが、優しい先生方に見て頂けて安心して保育をお願いできています	マスクをしている事で表情やことばが伝わりにくいで、優しい声かけ・仕草で関わっていく
		自分から好きな遊びを見つけて遊んだり、友達とのやり取りを楽しんでいる	広場に可動遊具を設定し、戸外あそびが十分にできるようになり、子ども達が自ら工夫したり、「やってみよう」とする姿が見られる	A	A		子どもの発達と「やりたい」と思える環境作りを工夫していく
		遊びの中で伸び伸びと体を動かしたり、自然物に触れたり、様々なことに興味を持ち探索活動を楽しんでいる	子どもの発達・興味に合わせ、あそびの環境を設定した事で、のびのびとあそぶ姿が見られる	A	B		0歳児のあそび方の工夫と発達に合った環境設定を工夫していく 1、2歳児のあそびが広がる援助をしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 子ども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	一人一人の育ちの差、様子、発達に合わせた生活ができるよう愛着関係を作り丁寧に関わっている	A	B	熱のないかぜ症状に対し「病院を受診してください」と言われる事に、違和感を持ちます(ご時世で仕方ないのかもしれませんが)	途中入園の子がいる中で、愛着関係をきちんと作り、落ち着いて生活できるようにしていく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児一人一人の生活リズムや家庭状況に応じて、園生活や遊びの流れを作っている	A	A		途中入園児、在園児が安心して園生活が送れるようバランスよく保育していく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	自然を通し、感性を刺激するような環境構成がされている	A	A		園内での自然物に触れる環境設定の工夫をしていく(草花の栽培、飼育等)
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットを分析し、環境の整備・点検を行い、園の安全が図られている	ヒヤリハットの報告で、大きな事故を未然に防ぐことができています	A	B	保育施設全般及び管轄課への要望です。 「咳、鼻水があれば受診」という旨の案内がありました。発熱や呼吸困難などの咳といった著しい症状が無い状態での受診や回復後の登園可否の判断についても医療がひっ迫している状況では、特に非現実的だと感じます。園または市で「登園を控えるべき状態」「登園再開できる状態」「医師の判断を要するケース」について具体的な判断基準を設け、ある程度は園長決済で動ける体制にしてほしいです	同じ事のくり返しがないよう職員間で周知し、未然に防げるようにしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に配慮しながら健康に過ごすために必要な習慣が身につくようにしている	身辺自立(基本的な生活習慣)に向けた援助を行いながら、健康に過ごせるようにしている	A	B		生活の流れがわかり、「自分でやってみよう」という気持ちを引き出す援助をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、保護者・関係機関と連携を取りながら支援をしている	個々の発達に合わせ職員間で連携をとりながら、保護者対応の仕方や子どもへの支援について話し合い、丁寧に対応している	A	B		連絡ノート、送迎時を通し、子どもの姿を保護者と共有し連絡をとりながら支援していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任を持ち、協力した園運営が進められている	分掌担当がそれぞれ自分の役割を理解し仕事を進めている他の職員にも協力・連携をとりながら進められている	A	B		分掌担当を細かく分けず、大きく分けて企画していく
6 研修	(1)研修体制の充実	園内研修のテーマを共通理解し、手立での検証を行いながら、保育実践が行われている	園内研修を通して改善点や提案をみんなで振り返り、保育実践につなげている	A	A		内容を具体的にわかりやすくし、目標に近づけるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの興味を知り「やってみよう」と思える環境構成が行われている	子どもが自ら興味を持って「やってみよう」と思えるようなあそび環境ができています	A	A		保育者も一緒に遊びを楽しみながら、子どものあそび、興味を探り遊びが広がるような環境作りをしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	様々な情報発信(絵本・食育等)を通し、子育ての楽しさを共有している	絵本・食育だよりの発刊、毎月のドキュメンテーションを通じ、園での様子を発信し、保護者と子どもの成長を共有しあっている	A	A		保育者の思いやねらい、保護者と共有したいこと、保育者に伝えたいことが発信できるようにしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	待機児童園の連携と、連携園の園児(2歳児交流)・職員同士の交流が図られている	連携園との交流は、コロナ関係と距離の遠さから難しいが、工夫して交流を進めていけるようにする	A	B		連携園の職員と交流のとりくみについて話し合う場を持ち検討し、実現できるようにしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域と関わる機会が増え、地域の園としての親しまれ、信頼される園となっている	挨拶や言葉を交わしたり、地域と関わる新たな取り組みを行っている事で少しずつ自園に対しての関心が高まっている	A	A		地域と交流したり関わる事で、子ども達に多くの経験ができるようにしていく